

多様な業務体験を通して学んだこと

1. はじめに

私は 2024 年 9 月 2 日から 5 日まで総務省東海総合通信局においてインターンシップに参加しました。本インターンシップを通して具体的な業務内容や局内の雰囲気を知りたいと思い、参加しました。東海総合通信局は、地域の情報化の推進や無線局の許認可等、地域の高度情報社会の構築に向けた施策を推進する総務省の地方支分部局です。本レポートを通して、私が参加した 4 日間の実習内容とその成果や学びを報告します。

2. 実習内容と成果

<9月2日（1日目）>

1 日目は東海総合通信局各課の業務説明や座談会を通して、通信局の概要や雰囲気を知ることができました。その中で災害対策用機器についての話が印象的でした。実際に中型電源車やスターリンク（衛星インターネット）を見学し、能登半島地震の際にどのような支援がされたのか、また支援の際の問題点等についても知ることができました。災害時に放送機器が使えなくなると避難指示や炊き出し等の情報を伝えることができず、2 次災害の危険性があるため、改めて被災地における通信の大切さを考えることができました。近年は南海トラフ地震の危険性も高まっているため、東海総合通信局の災害対策の必要性を感じました。

<9月3日（2日目）>

2 日目は、大学向け研究開発事業について東海総合通信局が共同で事業を進めている国立研究開発法人情報通信研究機構の概要と研究支援事業についての研修を受けました。その中で、戦略的情報通信研究開発推進事業（以下 SCOPE）の話聞き、グローバル競争が激化する国際社会において、国際競争力を高め、より豊かな社会を形成するために産学官の連携をより強固なものにしていくことの大切さを強く感じました。また産学官連携において、柔軟な発想や新たな研究アイデアの創造のために人と人のコミュニケーションや連携の大切さを感じました。

次に SCOPE で採択された研究の成果展開を知るために、名古屋大学病院を訪問し、具体的な研究内容と医療現場における課題や今後の展開について説明を受けました。ここでは、手術後通院できず、リハビリが受けられない人や離島に暮らす人の医療格差や医療における非効率性など様々な課題があることを知り、より安全で効率的な医療の実現のために DX の重要性について知りました。医療現場は専門性が高く踏み込みにくい領域であったため、今回のような具体的な課題を知り、少子高齢化によって医療の必要性が高まる日本において

て、いち早く取り組まなければならない課題だと感じました。SCOPEによって生まれた革新的な技術が現場で実際に使われているのを見学することができ、また開発者の先生方との意見交換を通して、これからの医療のデジタル化や問題解決のために必要なこと等、考えを深めることができました。

<9月4日（3日目）>

3日目は電波利用環境保護の概要や電波監視についての実習でした。まず電波利用環境保護については、電子レンジ等の身近な高周波利用設備の適切な利用や、技適マークやインターネット広告を始めとする周知啓発活動について話を聞きました。私は今回のインターンシップを通して初めて技適マークの存在を知りました。私が実際に使用しているパソコンや携帯電話にも技適マークがあることを確認でき、次はこのマークをより多くの人に知ってもらうために周知していきたいと思いました。

その後は監視調査課より電波監理についての説明を受け、実際に業務を体験しました。不法無線局を特定するための具体的な流れや調査方法を知り、実際に電波監視システム（DEURAS）による模擬調査を行いました。具体的には、東海総合通信局の管轄内の区域で発信されている電波を地図上で確認し、その地点でスペクトラムアナライザーという電波探査のための特殊な機械を使って、電波を特定する実習に参加しました。良好な電波利用環境を維持するために、無数に飛び交う電波を様々な技術や手段を駆使して特定するという通信局の業務に感銘を受け、また実際の貴重な体験を通して達成感を感じました。そして、普段実際に探査をされている局員方のノウハウや業務に向き合う姿勢についても身近で感じることができ、非常に勉強になりました。

<9月5日（4日目）>

4日目は地方自治体の地域情報化の取り組みについて、実際に岡崎市役所を訪問し担当者の方と意見交換を行いました。ここでは、岡崎市が抱える課題の解決や街づくりのために都市OSがどのように活用されているのかや、担当者の方が考える地方自治の今後の展望等を知ることができました。私は大学で地域活性を専攻しているため、これまでの学びと関連する話が多く、実際の自治体の現状や戦略等の話を聞きさらに理解を深めることができました。

その後は総務省の地域情報化の取り組みについて情報通信振興課の方々から説明を受けました。地方公共団体や企業を対象に行う地域デジタル基盤活用推進事業等、地域社会に情報化やデジタル化を促すために様々な事業が行われていることを知りました。話を聞く中で、急速に発展する社会において、誰一人取り残されないデジタル社会の実現のために、支援や人材育成、サイバー防御演習が行われていることを知り、スマートシティ実現に大きな期待感を抱きました。

3. まとめ

今回のインターンシップを通して、東海総合通信局の業務を実際に体験し、また多くの局員の方と交流することができ、大変充実した時間を過ごすことができました。とくに電波やデジタル化について、専門的なことから街づくりのような国民に身近なところまで多岐にわたる業務を体験することができ、自分自身が成長出来たと感じています。また、実習中は多くの局員や関係者の方にサポートしていただき、多くのことを学ぶことができました。今後私が自身のキャリアについて考える中で、今回学んだことを生かしていきたいです。